



鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「人は...ただキリスト・イエスによる^{あがな}贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました」

聖書(ローマ書3章23～25節)

牧師 河合裕志

「贖い」とは何か。同じ「あがない」でも「買い」は「買う」こと。「贖い」は「お金や物で罪や失敗の埋め合わせをする」こと。今パウロが言うのはこの贖いの方。キリストがそうした業をなしたこと。ということはいエスは何か罪や失敗をしでかしたのか。

そうではまるでない。自分のための贖いではなく他人のための贖い。そんな馬鹿な。贖いはいもっぱら自分のためにする。自分の犯した罪、失敗の穴埋めとしてなされる。人のためなんて考えられない。

それが実はなされた。それがイエスの十字架というもの。それは人々の「罪を償う供え物」だった。償うも贖うも同じ様な意味。償うも自己の犯した罪のために金銭などで埋合せをなすこと。場合によっては懲役、場合によっては死刑に。

なぜイエスは「その血によって」、死によって人の罪を償わなければならなかったのか。それは人の罪のあまりにも大きいことによる。それが小さければイエスは何も死ぬことはなかった。しかし事実死に値す

る罪だった。

ここでいう罪はこの世の法律にふれる犯罪のレベルを言っているのではない。それらも罪に違いないがそれ以前の心の動きを注目している。人への憎悪、軽蔑、高慢、悪口...これらは神の前では立派に罪としてカウントされる。まだ行いになっていないのに。

それからこんなものもある。「人がなすべき善を知りながら、それを行わないのは、その人にとって罪です」(ヤコブ書4章17節) これも罪と判定されるのなら、もうどこにも逃げられない。絶対絶命。まさに人間皆^{つみびと}罪人。この人間はいかにして罪の償いを果たすのか。お金? 懲役? 死刑? どれも厳しい、償い切れない。

そこで「神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました」。十字架のキリストを見て、それはわが罪の身代りとしての犠牲なんだと「信じる者」を神は「無償で義とされる」。無罪放免、義しい者と認めてくれる。そして罪を赦された者として神とキリストと親しい関係をもって生きる者とされる。そして少しずつ罪を清められ、人への善を行って行く者とされて行く。これは誠に「神の恵み」によること。一方的な神のアガペ(愛)によること。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時